



第106期 上半期株主通信

BUSINESS REPORT

2020年4月1日～2020年9月30日

証券コード:4543

“ウィズコロナ時代”と闘う医療現場に、 新しい価値を提供する

株主の皆様には、日頃よりテルモグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、いまだ世界各地で猛威を振っており、段階的に平常を取り戻しながらも、予断を許さない状況が続いています。お亡くなりになった方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

テルモグループは、新型コロナウイルス感染症に対する基本方針を掲げて、この未曾有の危機に立ち向かってきました。「全てのアソシエイトの健康と安全の確保」「製品の安定供給継続」「当該ウイルスの感染防止と治療への積極的貢献」の3つです。これらの方針が十分機能した結果、日々の

オペレーションは安定し、医療の最前線ではテルモの製品が大きな役割を果たしています。

米国食品医薬品局(FDA)は、新型コロナウイルス感染後の回復者血液成分を活用する治療法について緊急使用を許可しました。世界全体で10万人以上の治療に実施されたと言われるこの治療法において、血液成分を採取する当社のテクノロジーが活躍しています。北里柴三郎博士が100年以上前に発見した血清療法の原理が、今もこうした抗体治療に活かされています。

これから先、新型コロナウイルス感染症の再燃リスクばかりでなく、将来的なパンデミックへの潜在的脅威も踏まえて、多くの医療機関で感染対策が強化されると思われます。従前より感染防止を支援してきたテルモの多様な製品群を活用していただくことで、患者さんに安心を提供し、医療現場に新しい価値を提供することが可能です。この点に照らして、「感染対策イニシアチブ」と銘打った全社的活動を改めて立ち上げました。

今回のコロナ危機は、先進国といえども医療崩壊のリスクが存在することを浮き彫りにしました。この感染症への予防と治療に積極的に貢献することは、テルモの使命の一つです。新たな現実に向けて創造的なソリューションを提供できるように、力強いビジョンを描いていきたいと思えます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



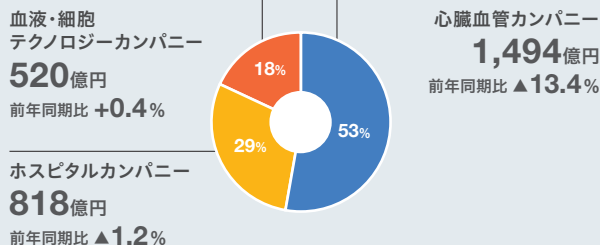
代表取締役社長CEO
佐藤 慎次郎

2021年3月期上半期の業績報告

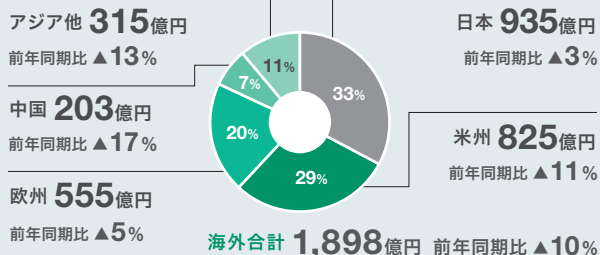
売上収益 **2,833** 億円 前年同期比 **▲7.8%**

営業利益 **418** 億円 前年同期比 **▲29.3%**

カンパニー別売上収益



地域別売上収益



※当社グループは2018年3月期期末決算より、国際会計基準(IFRS)を適用しています。

2021年3月期 通期の業績見通し

売上収益 **6,000** 億円

営業利益 **900** 億円

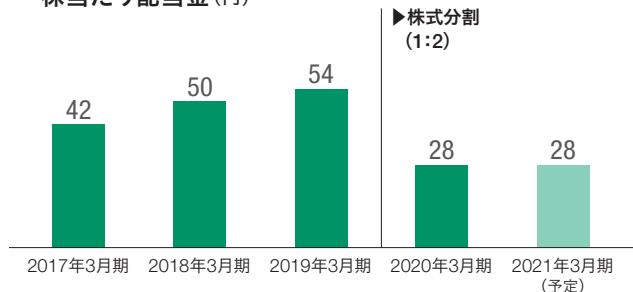
現時点では不透明な新型コロナウイルス感染症拡大(第2波・第3波)の動向、またその影響による需要減やサプライチェーンの断絶等のリスクについては、引き続き注視していく必要がありますが、当社グループは目標の達成に向けて、医療の質と効率の向上に貢献する高付加価値製品の導入及び拡大、さらなる原価改善、販管費の効率的な運用等に注力してまいります。

配当方針

当社は、高い収益性と持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的にすすめ、企業価値の一層の増大を図っていきます。株主の皆様への利益配分につきましては、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指してまいります。

当期の中間配当金は、1株につき14円といたします。また年間配当金につきましては、当中間配当金を含め、1株につき28円を予定しております。なお、当社は2019年4月1日付で、普通株式1株を2株とする株式分割を実施いたしました。

一株当たり配当金(円)



新型コロナウイルス感染症への テルモの取り組み

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の猛威に、世界各国が必死の対応を迫られています。

この状況下においてテルモは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念を実践するため、3つの基本方針に基づいて事業活動を推進しています。

1. 全てのアソシエイトの健康と安全を最優先にした対応を進めること
2. 「医療を止めない」ため、製品の安定供給に努めること
3. テルモグループの力を結集して、感染防止と治療に積極的貢献を図ること

感染症に立ち向かう医療現場を支え、少しでも多くの患者さんが適切な医療を受けられるように、テルモグループの力を結集して取り組んでいることをご紹介します。



海外の現場で――

ブラジルの仮設病院における 薬剤投与システム導入をサポート

ブラジルでは新型コロナウイルスの感染者の増加を受け、大勢の患者さんを受け入れる体制の整備が課題となっていました。

そこでブラジルの連邦・州・市政府は、短期間で患者さんを受け入れられるよう、スタジアムや体育館、公園などに仮設病院を設立し、病床を確保。感染流行の中心地にあったサッカー場「パカエンブスタジアム」にも急遽、仮設病院が開設されることになり、建設開始からわずか11日で病床が整備されました。

そうした中、テルモはブラジルの緊急医療を支えるため、集中治療室(ICU)での薬剤投与に欠かせない輸液ポンプと、その使用方法のトレーニングを提供。同スタジアムの仮設病院のICUに

も、テルモの輸液ポンプが100台以上設置されました。

輸液ポンプとは、患者さんの容体を安定させるために、一定時間で一定量の薬剤を正確に注入するための医療機器で、通常は、納品するだけでなく、医療従事者に正しく使用してもらうためのトレーニングも実施しなくてはなりません。しかし、今回は短期間のうちにトレーニングを完了させる必要がありました。

そこで、現地拠点であるテルモメディカルブラジル社のアソシエイトたちは、通常のトレーニングのほか、製品の使用方法を短期間でよりよく理解いただくため、動画版マニュアルを制作し、医療従事者が自分の携帯電話でそれを確認できるよう工夫するなど、従来の形にと



られない取り組みにも挑戦しました。その結果、仮設病院が完成するまでに医師、看護師、救急隊員など全スタッフへのトレーニングを完了。短期間での医療体制の整備に貢献することができました。

なお、同スタジアムの仮設病院はすでに役目を終え、閉鎖されていますが、今もブラジルでは新型コロナウイルス感染症との闘いが続いており、テルモは医療現場をサポートし続けています。

国内の現場で――

慢性腎不全の患者さんのために 腹膜透析液を安定供給する体制を整備

腎不全の患者さんの中には、腹部に透析液を入れ、腹膜を使って血液を浄化・調整する腹膜透析療法をされている方々があります。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、そのような患者さんの多くは、医療施設と相談の上、外来受診の代わりに電話などで主治医

と連絡を取りながら自宅で治療を続けられていました。

こうした中で医療従事者や患者さんが不安視されたのが「腹膜透析液の配送が止まってしまうのでは」という点でした。そこでテルモは生産と物流が滞らないよう、先を見通した在庫の確保や、通常使用している倉庫や配送拠点が新型コロナウイルスの影響で使用できなくなった場合を想定した、新たな配送ルート設定に取り組みました。

また、透析液の配送業者は患者さんと接触する機会があるため、配送時のマスク着用などの徹底にご協力いただきました。腹膜透析治療を止めないためには、多くの方々の協力が必要でした。

腹膜透析に携わる事業においては、“患者さんの腹膜透析治療を止めないこと”をモットーに、患者さんが安心して治療を継続できるように、現在も医療施設と連携しサポートしています。



医療を止めないために“止まらない物流”を追求

テルモでは、新型コロナウイルスの感染が拡大する中においても、感染対策や業務体制の工夫を行いながら、世界中で必要とされている製品が安定して医療現場へ届くよう努めています。

例えば、製品への登録番号の付番や、全製品の受注登録・出荷調整を担う部署では、マスクの着用はもちろん、手指消毒の徹底、作業場所の分散等を行うことで、アソシエイトの感染リスク低減に努めています。また、原材料の輸出入に携わる部署では、在宅勤務時と出社時とで業務を分け、部署全体で相互に業務をフォローし合える体制を構築しました。

倉庫での製品保管や輸配送の場面においても、「物流を止めない」という思いの下、医療現場からの緊急出荷の要請にも応えられるよう、懸命に働くアソシエイトたちの姿があります。

今日も医療現場へ製品が安定的に届くよう、“止まらない物流”を追求しています。



株主様向け自社施設見学会に関するお知らせ

例年実施しているテルモメディカルプラネックス(神奈川県足柄上郡)の見学会につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、開催方法を現在検討しております。詳細につきましては12月中旬に、弊社ホームページにてお知らせ予定です。

テルモメディカルプラネックスとは

テルモメディカルプラネックスは、医療技術の創造と普及を目指して設立された施設です。病院や居宅と同等の医療環境を再現した空間で、医療関係者の実践的なトレーニングや、製品開発のためのコラボレーションが行われています。また、国内の医療関係者のみならず、各国の政府関係者や海外の医療関係者など多くの方が訪問し、2002年のオープンからの来訪者は、のべ15万人を超えています。



中間配当金のお支払いについて

第106期中間配当金は、同封の「中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払渡期間中(2020年12月2日～2021年1月29日)にお近くのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、口座振込ご指定の方には、「中間配当金計算書」および「配当金振込先ご確認」のご案内を同封いたしましたので、ご確認ください。



テルモは、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計を国産化するために、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。

北里柴三郎博士(資料提供:学校法人北里研究所)

テルモ株式会社(証券コード: 4543)

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目44番1号 電話:03-3374-8111(代表)

<https://www.terumo.co.jp/>

株式についてのご案内

- ◎事業年度 4月1日から3月31日まで
- ◎株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- ◎同連絡先(郵便物送付・電話照会)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話:0120-232-711(フリーダイヤル)
- ◎単元株式数 100株

